

令和 7 年 (2025 年) 10 月 30 日

湖南市長 松 浦 加 代 子 様

湖南市総合計画審議会
会長 白 石 克 孝

第三次湖南市総合計画（案）の策定について（答申）

令和 6 年 (2024 年) 7 月 31 日付湖創第 208 号で諮問のありました第三次湖南市総合計画（案）について、本審議会により慎重に審議した結果、別紙のとおり答申します。

なお、本審議会の審議過程で各委員から出された意見や答申内容に十分配慮し、まちの将来像である「ずっとここに暮らしたい！みんなで創ろう笑顔つなぐ・つながる湖南」の実現に向け、本計画（案）を着実に推進されるよう求めます。

(別紙)

本計画（案）は、市民意向調査や市民ワークショップ、本審議会の委員へのヒアリング、パブリックコメントなどを実施し、対話を重視しながら策定を進めてまいりました。本審議会においては、その成果を踏まえた上で審議を行い、本計画（案）が策定されたことに大きな意義があると総括し、以下の内容を意見として申し添えさせていただきます。

【総括】

我が国は長期的な人口減少局面に入り、急速な少子高齢化が確実視されています。湖南市においても、これまで以上に厳しい状況が想定されます。一方で、交通の要衝として産業や文化が栄え、ものづくりのまちとして発展してきたこと、そして先人たちの努力により、現時点ではバブル崩壊前の人口を維持し、生産年齢人口の割合も比較的高い水準で維持している点などは、一定の評価に値すると考えます。また、世代を問わず多様な価値観を尊重し、共生を目指す市民が多いことも、築いてきた地域社会を未来へとつなぐ大きな力と考えます。社会が大きく変動すると予想されるこれから10年間においては、地域を支える人々がつながり、公共交通や産業振興などの行政課題について、本当に困っていることは何かを話し合いながらまちづくりを進めていくことが重要です。そして、想定されるリスクに対して優先順位をつけ、抜かりのない施策を講じる必要があります。今後起こりうるさまざまな危機を回避するため、下記の観点に立ち、人づくりへの投資を重点的に進める10年とすることを提案いたします。

記

- ・まちの将来像「ずっとここに暮らしたい！みんなで創ろう笑顔つなぐ・つながる湖南」の実現に向けて、6つのまちづくりの目標に基づき政策を展開するとともに、重要な政策テーマについては一層の推進を図ること。
- ・湖南市は、ものづくり人財や多文化共生など、地域における人と人のつながりが大きな強みです。また、湖南市版小規模多機能自治や、若者が主体的にまちづくり活動に参画できる土壌があり、社会の変化に対応した地域づくりに取り組んでいます。こうした背景を踏まえ、誰もが夢のあるライフスタイルを実現できるまちの姿を10年後に届けられるよう、重要度と市民ニーズの高い施策に積極的に取り組むこと。
- ・市民意向調査や市民ワークショップ、本審議会における議論では、公共交通の充実を求める意見が多数寄せられています。地域社会の生活利便性や活力維持の観点からも、

多様な主体の参画や社会実験・先導的モデルの推進に果敢に挑戦し、費用負担のあり方も含めた事業計画の見直しに取り組むこと。

・本計画（案）の最終的な目標達成に向けて、「住民幸福度」を重要な目標達成指標に設定しています。また、施策の進捗を評価するために、全 54 項目からなる重要業績評価指標を策定しています。これに基づき、目標達成に向けて実施計画を適切に推進とともに、市民満足度を高めるために効果的かつ着実な施策の進捗管理を行うこと。

・本計画（案）は、10 年後のまちづくりを見据えた構想ですが、グローバルな影響を受けて激動する社会経済情勢の中では、将来の予測が難しい事象も発生し得ます。湖南市は、SDGs や環境への取り組みなど、グローバルで多様な価値観が尊重されるまちであることを強みとし、こうした変化のスピードに的確に対応しながら、施策の見直しを柔軟に行い、まちづくりの目標の実現に取り組むこと。